

第48回リハビリテーション懸賞作品 第三位

「たゆたう心のまま、ありのまままで」

M・S

「障害者」、「障碍者」、そして「障がい者」。時には、「チャレンジド」という言葉も。

最近、どの表記を用いるか、さまざまな意見を目にするようになりました。ただ、表記の問題だけが一人歩きしている気がするの、私だけでしょうか。何をどうすれば、その人の心に寄り添い、不便さを改善できるのか。具体的な、そしてもっとも根本的な問題解決には到っていないように感じます。

一方で、障害のある人たちが、どういうことを求めているのかわからないから、行動に移せない。あるいは、無関心を装っているのではなく、ただ単に知らないだけということも、あるでしょう。

私自身、難聴と向き合いはじめた頃は、「どうしてこれほど無理解な人が多いのか。」と驚きました。「少し聞こえ難いことがあります。」と伝えると、話し始めはある程度ゆっくり、はっきりと話していただけますが、次第にいつもの口調に戻ってしまいます。また、目には見えない障害だけに、忘れられてしまうことも多々あります。

「見た目では気づかない障害」だからこそ、コミュニケーションの相手に自ら伝えることが大切。話の初めに難聴のことを伝えなければ、誤解が生じてしまう。そう頭では理解してはいるものの、なかなかタイミングがつかめず、伝えることに消極的になってしまう時もあります。

人間誰しも、「弱点」だと自分で思っていることを、他人に何度も説明したいとは思わないでしょう。自分の弱点を知られずに、隠し通すことができるのなら、また、ある程度の努力と工夫で、弱点をごまかすことができるのなら、その道を選んでしまうかもしれません。けれど、それでは何も解決しません。

「聴覚障害」は「コミュニケーション障害」とも言われています。コミュニケーションは、当然、自分ひとりではなく、相手を含めた双方向性のもの。自分が嫌な思いをしている時は、少なからず、相手も同じように嫌な思いをしているはず。さらに、言葉のキャッチボールがうまくいかない原因を知らない相手は、ある意味、聞こえ難くて困っている本人よりも、歯がゆく不愉快な思いをしているかもしれない。

当たり前とも思えるこの事実を、弱点を隠すことに必死になっていた私に、同障者が教えてくれました。それからは、「隠す努力」をやめ、「伝える努力」を惜しまぬよう心がけています。

「障害のある人たちを思いやる心」を育むためには、まず、障害を抱えている本人が声を出す。それが一番大切なかもしれません。「理解がない」と思えば腹も立ちますが、「何

も知らないのでは？」と見方を変えると、自然と「伝えないとわかってもらえない」と思えるようになりました。

「障害」と一言と言っても、肢体不自由、言語障害、視覚障害、聴覚障害等、色々あります。また、それぞれの中でも、障害者手帳交付対象となる人から、そうでない人まで、障害の程度もさまざまです。そして、求めている手助けや配慮も、それぞれ違います。

誰一人として同じ人間が存在しないように、同じ障害でも、障害をおった時期や障害との向き合い方も、千差万別です。

聴覚障害者の集まりに参加した時、普通に声でお話をしている方がいました。私は、てっきり「聴者」だと思い込み、その方に声で話しかけたのです。すると、その方は「難聴者です。」と教えてくれました。

手話が流暢でない私は、口型が読み取りやすいよう、はっきり、ゆっくりと話をしました。私自身、この方法でも聞き取れずにもどかしい思いをした経験があるにもかかわらず。そんな私に、その方は筆談ボードを差し出してくれました。手話のできない私と、この方との最良のコミュニケーション方法は、「筆談」だったのです。

難聴と向き合いはじめて、まだ二年目の私には、相手にとってどの方法が良いのかを考える選択肢が、少なすぎました。「聴覚障害」という同じカテゴリーに分類される人同士でさえも、お互いに求めることは、少しずつ違うということを実感した出来事でした。

また、ある時、視覚障害の方から、『階段があります』と教えていただくだけでは、必要な情報の半分しか伝わっていません。残り半分の情報も、かなり重要なのです。」ということ伺いました。一瞬、「階段がある」以外の必要な情報が何なのか、わかりませんでした。

「上りと下りでは、同じ階段でも一歩目の出し方が全く異なります。また、四～五段上りますや、下り階段がしばらく続きますといったことも、伝えていただけると有難いです。」と言われてみて、初めて気付きました。

私の場合、静かな場所や、近い距離での一対一の会話なら、ほとんど普通に聞き取ることができます。しかし、少し騒がしい場所や、補聴器が音を拾い難い距離での会話には苦勞します。さらに女性の声は聞き取りやすいのですが、男性の声は聞き取り難い傾向にあります。このように、自分自身の障害についても、正確に全部伝えようと思えば、複雑だと感じてしまいます。本人でさえも、説明が難しいと感じるのですから、理解しようとしてくれる相手にとっては、とても一度では伝わらないでしょう。

自分が経験していないことを完全に理解することは、不可能です。ましてや、「即座の想像力」で補いきれるものではありません。それぞれの障害が、どんな不自由さがあり、どうフォローして欲しいのか、当事者本人でないと本当にわからないのでしょう。

だからこそ、障害をかかえる人は「どういう状況だから、何をどうして欲しいのか」をわかりやすく伝える努力が、周りの人は「どうすればよいのか」を常に聴き、知ろうとす

る姿勢が、お互いに必要なのだと思います。そうすれば、大雑把に便宜上二分化された「障害のある人」と「障害のない人」との気持ちが、平行線のままではなく、いつしか自然と交わる時が来る。そう信じています。

二十七年間、「聴者」として歩み、その後、障害を受け入れられずに心の葛藤を繰り返しながらも、「難聴者」の立ち位置に落ち着き二年が過ぎました。そのため、「聴者」と「難聴者」それぞれの意識や考えがわかります。だからこそ、「透明なバリア」つまり「聴者と難聴者の間にある線」という曖昧で実態のないものを敏感に感じ取ってしまいます。

一度では伝わらず、何度も同じことを聞き直す。「聴者」だった頃の私は、「うっとうしい、わずらわしい」と感じていました。正直、何度言っても伝わらなければ、「もういい」と、伝える行為そのものを一方的にやめてしまったこともあります。しかし、「難聴者」の今の私は、「言っていることを正確に知りたいから、わかるまで何度も言って欲しい」と願います。

また、適切な言い方ではありませんが、障害者慣れしていない人がほとんどです。そのため、ある障害を目にすると、その箇所、例えば、視覚障害者の白杖、脳性麻痺の方の電動車椅子、聴覚障害者の補聴器などに目がいてしまいます。そして、じっと見てはいけないと何故か思ってしまう、慌てて視線を逸らすのです。眼鏡と同じように、その人にとっては必要なものにもかかわらず、見慣れていないが故に、思わず凝視してしまうのです。「珍しいから目につく」こと自体、ごく当たり前のことだと思います。問題はその後です。目を逸らせて、それで終わり。今のは見なかったことにする。そういう考え方をしないでいただきたい。

競争社会の今、そして、明るい未来を容易に想像できない混沌とした社会状況。自分の日々の暮らしに精一杯で、他人を思いやる、心の余裕など持ち難いのが現状です。しかし、こんな時代だからこそ、少し立ち止まって考えてみてください。

今、あなたが目にした「障害」は、自分には全く関係がないと、本当に言い切れますか。この先、何が起こるか、誰にもわかりません。平均寿命が延びると共に、「老人性難聴」になる人も増えてきています。見ず知らずの人への思いやりが、その場限りではなく、めぐりめぐって自分へと結びつくかもしれません。

うわべだけの慰めや励まし、そして綺麗事を聞きたいのではありません。ありのまま、そのままの自分を受け入れてくれる気持ちが伝われば、たとえ言葉足らずでも、不器用な手助けの仕方でも、十分に嬉しいのです。

私は、数字を聞き取ることが苦手です。時間を伝える時、指でその数字を表してくれる方がいます。ほんの些細なことなのですが、私にとっては、耳だけでなく目で確認することができ、とても有難いのです。

「相手を思いやる心」というと、大げさで、身構えてしまうかもしれません。ましてや、自分とは少し異なる個性を持った「障害者」を思いやるとなると、なおさらです。何か手

助けをしたいけれど、かえって足手まといになるのではないか。そう逡巡しているうちに、他の誰かがさりげなく声をかけていたという経験もあります。

相手の立場に立って的確に行うというのは、同じ障害を持った人同士でも難しいものです。だから、肩肘張らず、「おはよう」と声をかけるような感覚で、ほんの少しでも役に立てたらという気持ちで接して欲しいと思います。自分にできることを、背伸びせずに少しずつ。初めは戸惑いだらけで、気持ちだけが空回りしてしまうかもしれません。けれど、色々な人との巡りあいの中で、ゆっくりと前に進めれば、それで良いのです。お互いに歩み寄る気持ちを忘れなければ、時間はかかっても、わかり合えるはずです。

障害のある人とそうでない人。「住む世界が違う」のではなく、「求めることや伝え方がほんの少し違う」だけ。ただそれだけのこと。

あなたが大切にしている、その「ほんわかとしたぬくもり」を、誰かに伝えてみませんか。ほんの少しの勇気があれば、大丈夫です。「心の壁」。それは、一度乗り越えられれば、案外大したものではありませんでした。笑顔と共に、まずは、一歩踏み出してみてください。